

導入事例

安全運転管理

業務効率化

ダイチ工営株式会社 様

橋梁補修・補強工事/橋梁付属物製品販売

義務化開始 (2022.4月) から1年以上『スリーゼロ』を使い続けて価値を体感！
「直行直帰」対策として、スリーゼロ+独自の運用・工夫で業務効率化



取材にご協力いただいた皆様

ダイチ工営株式会社
<https://www.daichikoei.co.jp/>

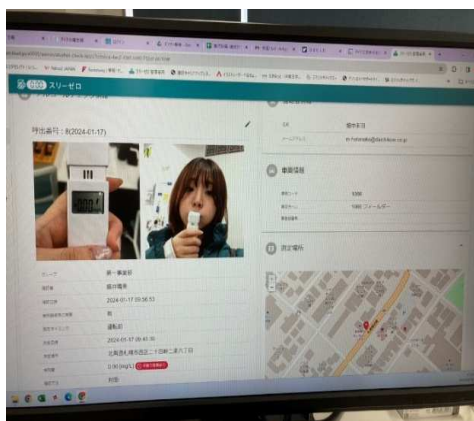
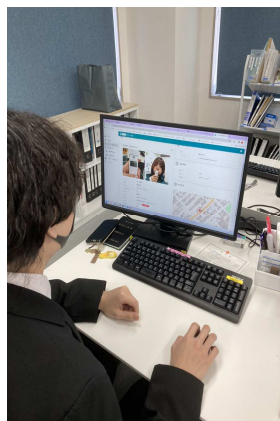
会社概要
北海道札幌市に本社を構え橋に使用する資材の設計・販売及び橋の補修・補強工事などを事業として展開。

プラン	: シンプルプラン
導入時期	: 2022年4月
車両用途	: 工事担当が現場へ直行 (直行直帰) 営業用途
管理車両	: リース車両

導入後のご利用状況

業務効率化に加え、簡単でシンプルな操作性のため社員も負担なく活用

工事担当の直行直帰用途で毎日活用、営業用途でも活用しています。『スリーゼロ』は、簡単で使いやすくシンプルな操作性のため、ほとんどの社員が負担なく使いこなしています。日々の業務の中でアルコールチェックを徹底し多くの社員が前日の飲酒量をセーブするなど飲酒に対する社員の意識変化もありました。サービスの導入により、管理運用の確立だけでなく、結果的に飲酒運転の撲滅にもつながり、社員を守る取り組みとして大きな成果があったと考えます。



直行直帰の対策について

アルコールチェック専門社員を採用するなど、独自の工夫で管理を徹底

当社では、直行直帰が頻繁にあるため、2022年4月の義務化開始後すぐにアルコールチェック専門の社員を採用しました。アルコールチェックが必要な朝と夕方の時間帯に入ってもらいチェック管理業務を徹底しております。リモートでも目視確認を実施するために、『スリーゼロ』のチェック記録を見ながら、ビデオ通話で確認しております。『専門社員が不在の休日対応など、当初は想定しなかった事例が発生した場合は、その都度問題提起して対応策を整備しております。

導入の決め手

簡単に効率的にクラウド管理できることが当社にマッチ

義務化を機会に、簡単に効率的に管理できる手段などを検討していました。2022年4月の義務化開始当時、クラウド管理サービスは、専用検知器が必要なものや多機能のものがあサービスを選定に悩んでいました。数社検討する中で、『スリーゼロ』は、シンプルな操作性であり、簡単にクラウド管理できる、更に法改正に対応できるアプリとして完成度が高かったので、信頼できる管理ツールとして当社にマッチしていると感じました。

今後の期待

点呼のAI自動化、勤怠管理など他のサービスとの連携による更なる業務効率化を期待

工事担当、営業担当なども、出先や早朝夜間にアルコールチェックをすることも多々あります。スマートフォンのカメラの性能に依存するとは思いますが、そういった環境でも簡単に読み取れるような精度向上を期待しております。また、将来的 (※法律改正に依存する所) ですが、アルコールチェック測定結果の確認・点呼・目視確認なども含めて、人の代わりにAIが確認できるようになればと思います。当社では勤怠サービス/チャットツール/グループウェアなど様々なサービスを導入しております。そういった業務管理サービスとの連携拡大などを期待しております。